

つくば総会準備ニュース No.2	2
つくば総会紹介シリーズ①	2・3
2023年第1回全国運営委員会報告	3
支部だより：新潟支部、2025年総会の受け入れを承認	3
青森支部、日帰り巡検の報告	4
福島支部、巡検の報告	4
北陸支部、例会・忘年会の報告	5
団研つうしん：設楽団研のこの頃	5
第60回構造コロキウム記念シンポジウム開催	6
会員の声：「会津テラス計画」着手さる	7
新型コロナ	7
地団研事務所移転・お知らせ	8

「会津テラス計画」着手さる—遂に始まった磐梯山の乱開発—

2023年10月30日、「会津テラス計画」着手が報じられた。ネット検索「会津テラス 着手」でヒットする。11月1日に現地を調査したので報告する。この「会津テラス計画」の概要については『そくほう』No.793「磐梯山の開発と自然環境の保全」で報告した。また、磐梯山の諸問題は、No.800「文化財の盗掘問題」とNo.802「研究データ窃盗事件」でも報告した。磐梯火山関係は問題山積である。

会津テラス計画は、株式会社 DMC aizu が行っている。HPによると「11月から工事に入り、2025年秋に開業」とある。完成時には、赤埴山山頂部に1年中利用可能なレストハウス「会津スカイテラス」、これと山麓の猪苗代スキー場とこれを結ぶゴンドラリフト「会津スカイケーブル」もできる。レストハウスは200席の巨大施設で、ゴンドラリフトは輸送人員2400人/時と大掛りな施設である。掲げられた理念は「国立公園の保護と利用の好循環により、優れた自然を守り地域活性化を図る」である。また、レストハウスでは「磐梯山ジオパークの学習」を行うと明示されており、「磐梯山ジオパーク協議会が関与」していることが窺える。

上記の報を受け、11月1日に現地調査に赴いた。工事はすでに始まっていた。まず驚いたのが林道「赤埴線」の変貌である。これまでは、幅員が狭く、路面は岩だらけの悪路であった。ところが、幅員は最大で大型トラック2台分ほどに拡幅され、路面は細かい碎石になりローラーで整地されていた。また、側溝も整備され、ジャングル状態だった法面も綺麗になっていた。更に、林道の1180m付近から、レストハウス方向に道ができていた。

私は、林道終点から赤埴山に登り、レストハウス予定地に行った。この場所はスコリアのガレ場で、ガレ場南端の低木地帯には新たな小径が山麓に向けて切り開かれていた。帰り道で、山小屋の方と偶然会って話を聞いた。要約すると「環境庁から依頼で現場を確認に来た。環境庁は、多方面から圧力を受け、仕方なく『自然保護を前提』に許可した。樹木の伐採は許可していない。しかし、実際には樹木が無許可で切られている。レストハウス予定地には高山植物の群生地もあるが、全く考慮されていない。工事はやりたい放題になっている。」であった。

なお、レストハウス予定地への資材運搬道路は、現時

点で本格着工されていない。2024年春からと考えられる。ゴンドラリフトも同様と考えられる。いずれにせよ斜面傾斜30度以上の所での工事であり、難工事が予想され、大規模な自然破壊も危惧される。

(追記) 原稿作成後、降雪により山麓から建設予定地(樹木伐採跡)が見えるようになった(写真)。秋に樹木を伐採したものと考えられる。2024年の雪解け後に、本格的な工事が始まるのであろう(2024.01.04)。

地質学的事実を簡潔に書くと、赤埴山の頂部は赤色～赤紫色～黒色のスコリアで、一部がアグルチネートになっている。その下には非溶結の厚い軽石流堆積物があり、その下に溶岩がある。建設予定地は、一部に溶結部があるが、多くは非溶結のスコリア・軽石の可能性が高い。このような地質で、しかも急傾斜地に、巨大な建物を建設しようとしているのである。

最後に、これまでの経緯を見ると、「開発ありき」で計画が進み、後付けで「環境保全」や「SDGs」などがなされている。自然は一度破壊されると、容易には元に戻らない。いつも言うことだが、「目先の金で動くと後で取り返しのつかないこと」になる。福島県は、原発事故で身に染みたるはずであるが、関係者は懲りていない。私は今後も記録を残していくつもりである。

(2023.11.12 福島支部 千葉茂樹)

